



巻頭言

「心に秘めて」(ルカによる福音書 第1章46-56節)

文学部宗教主事
おち あい けん じ
落合 建 仁



今年の8月28日、アメリカの公民権運動を率いた黒人指導者マーティン・ルーサー・キング牧師(1929-1968年)が「私には夢がある」と演説した1963年のワシントン大行進から60年を迎えました。公民権運動が始まるきっかけは、1955年のモンゴメリー・バス・ボイコット事件でした。それはローザ・パークス(1913-2005年)という、一人の黒人女性の行動から始まりました。クリスマスの備えを始めるアドヴェント(待降節)の最初の日曜日の後、12月1日に、当時無名であった一女性の行動から歴史が動いたということ——

この、クリスマスに備える時期に、当初無名であった一女性による、一つの行動によって歴史が変わるといった点に、あのイエス様を宿したマリアをも思い起こします。今から約2000年前、少女マリアのもとに天使が現れて、驚くべき内容を告げました。それは、マリアは身ごもって男の子を産む、それも救い主となる子を産むというものでした。

私たちはマリアでもなければ、ローザ・パークスでもありません。私たち自身のうちに、生きることの辛さや疲れ、またそれを生み出す社会全体の問題といったものを、根本から立て直すような力はあまり持っていないことでありましょう。私たちもまた無名の一人ひとりという点で同じです。

それではマリアのあの決断の秘訣はどこにあったのでしょうか。そこで注目したいのが、イエス様を宿すことを、信仰をもって受けとめたマリアが神様をほめたたえ

る歌を歌った、いわゆる「マリアの賛歌」冒頭の言葉であります。「わたしの魂は主をあがめ」(46節)——それは、ギリシャ語を直訳すれば「主を大きくする」という言葉です。コンピューターにメガバイトというデータ単位がありますが、あのメガにあたる大きいという意味の言葉が使われています。つまり、神様を大きくすること、そこにこそ自分自身が、歴史、社会、世界が動くほどの力が秘められているということでもあります。

私たちはしばしば、周囲の目や常識に縛られたり、抑えつけられたりしてしまっていますが、それはまさに神様よりも周囲のほうを大きくしてしまっている状態と言えましょう。そして、神様を小さくしてしまう時、人は傲慢になり、それがマリアやローザ・パークスを苦しめたような社会を作り出したとさえ言えましょう。だからこそこの時、クリスマスが、まさにそのような罪に満ちた世に、そして私たちのために、神様が独り子を遣わしてくださった出来事であることを思い起こしたいのです。

皆様お一人おひとりの中での踏み出したい一歩、または促されている一歩があることと思います。その中身は実に様々でありましょう。けれども、その一歩を、神様を大きくし、神様はこの私に目をとめてくださっているのだとの喜びを心に秘める時、私たちは、神様がなしてくださる大いなるご計画の中での一歩として、力強くかつ喜びの歌を歌いつつ歩むことができるのだと思います。主が共にいてくださる幸いを、クリスマスのこの時、皆様と共に感謝したいと思います。

私の教会

日本基督教団名古屋西教会

大学事務部長
はら だ のぞむ
原 田 望



名古屋西教会の住所は、名古屋市西区数寄屋町7-3。名古屋城の真北に位置し、地下鉄名城線の名城公園駅と鶴舞線の浄心駅の間点の住宅街にある小さな教会です。余談ですが、住所の数寄屋町は、名古屋城の築城当時から茶室などを作る数寄屋大工が住んでいたことに由来しています。周りには鷹匠、紙漉、台所などユニークな地名が多くあり、これも名古屋城に出入りしていた職人たちが住んでいたことの名残です。

名古屋西教会の歴史は、戦前の1937年（昭和12年）まで遡ります。第二次世界大戦中は、治安維持法により牧師が投獄され殉教するなど酷い弾圧（迫害）を受けた教会でもあります。しかし、戦後も日本基督教団のなかでホーリネス信仰 (https://holiness.gr.jp/about_us/) を掲げ伝道を続けてきています。



日曜日の礼拝は10時30分からです。お年寄りから幼子まで年齢層は幅広く、毎週20名ほどの出席者で礼拝が守られています。小さな教会ではありますが大変アットホームな教会です。

アットホームな教会のもとになっているのは、牧師先生夫妻の人柄が大きいと思います。名古屋西教会に着任し20年ほどが経ちますが、いつも大変明るく、わかりやすいお話しをしてくださいます。クリスチャンでない方も教会は初めてという方もお気軽にお越しください。

(牧師 川崎信二・川崎理子／電話 052-524-5413)



私の学生時代

世界的な大変化のなかで思い返す教え

文学部長
あさ い くに あき
浅 井 邦 昭



1989年4月、私は中国留学をめざして、金沢大学文学部に入学しました。しかし、この年の6月に北京で天安門事件が発生し、私も一度は留学をあきらめかけました。しかし、恩師や共に留学をめざす仲間が後押ししてくれたことで、3年間モチベーションを維持し、4年生で念願の上海へ留学できました。

いまま新型コロナウイルス感染症による大変化により、多くの人々が不安を感じ、海外にも行きにくくなりました。内向き志向が強い時代だからこそ、海外に目を向け続けなければいけないと思っています。

大学4年間は、ソ連崩壊など、冷戦時代の終結に当たります。このころ、ニュースを見た恩師のひと言が、いまま忘れられません。そのことばとは「ソ連が崩壊して、世界は大きく変わるだろう。しかし、新体制になっても、旧体制の古いものがまた何らかの形で表に出てくるに違いない。」でした。現在のロシアによるウクライナ侵攻を見ると、恩師の予測の的確さに感じ入ります。

このことばをきっかけに、私は研究テーマを中国最後の王朝、清代にしました。清末は欧米の侵略により、社会が崩壊していきます。そうしたなかでも、伝統的な教養に基づいて社会を救おうとする知識人がいます。彼らの態度に魅力を感じ、私はいまままで清代の思想や文学を研究し続けてきました。

何気ないひと言が、私の研究者としての道を開きました。ちなみに、恩師ご本人は、このときのことを覚えていないそうです。現在も私はこのことばを思い返すとともに、教師は時に学生の人生を変えることもあると、その責任の重さを感じています。



軽井沢バイブルキャンプ報告

テーマ「わたしがわたしでいられる場所」 -あなたのベースはどこですか？-

「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯。」(詩編119編105節)

日程：2023年8月23日(火)～25日(金)

場所：金城学院軽井沢スマイスハウス

講師：塚本吉興つかもとよしおき氏 (日本基督教団福岡中部教会牧師)



バスに揺られながら到着した軽井沢。気温は22度でした。森に囲まれ、木漏れ日の降り注ぐ空間に建てられたスマイスハウスで、心静かに、共に聖書に聞く時間。「わたしがわたしでいられる場所」という主題のもと、「わたしとは誰か?」、「わたしの人生の基盤とは?」、そして「神への信仰という土台」について三度の学びの時を通して深めることができました。普段、私たちはこのような問いを考えることなく過ごしています。

創世記に神が人をご自身にかたどって創造されたと記されています。また天地創造を終えた神は、造られた世界を見て「極めて良かった」と言っておられます。聖書の人間観の大前提に、人間がそのような神によって造られ、愛される、神の最高傑作である、という理解があります。また、人生の基盤ということを考える時には、人間が「愛」なくしては生きられない、「時間」を惜しんで重んじている、「死」を恐れ、できるだけ避けようとして生きている存在であると言えます。しかし、それらの背後にあるのは、やはり神であり、わたしたちが何を人生の基盤に据えようとも、この世が神の世界である以上、造られたお方への道を指し示していると言うことができるのです。

神への信仰を土台とすることは、神がまず私たちを愛し、受け入れ、共にいてくださることを信じられて初めて可能とされます。主イエスの復活の後、エマオに向かった弟子たちは、とぼとぼ先生の死を嘆きつつ歩いていました。すると旅人が彼らに近づき聖書について語り始めたのです。彼らの心は燃やされ、それが復活の主イエスであっ

たと気づいた時、他の人々に知らせるために、来た道を走って戻ったのです。「わたしの居場所はどこにあるんだろう…?」という思いを抱くことは誰にでもあります。しかし、居場所はすでに、主イエスが私たちのすぐそばにいて備えてくださっているのです。(塚本吉興)



軽井沢バイブルキャンプに参加して

金城学院大学軽井沢バイブルキャンプに参加して自身の成長につながる手がかりがあったと三日間を通じて感じました。この合宿の目的である「わたしがわたしでいられる場所」は、自分自身の確立や自立を志す良い機会だと思い参加しました。講師の塚本吉興先生の指導のもと、キリスト教の教えから自分の人生を追求しました。

三日間の学びの中で印象的だったのは、二日目の「人生の基盤となるものとは」です。映画「素晴らしきかな人生」のセリフにある愛、時間、死を人生の基盤として考えました。私は、人生の基盤として死が興味深く感じました。それは、死があつてこそその愛や時間ではないかと思ったからです。愛を惜しむことは最後に死があるから半永久的に続き、時間を惜しむことは最後に死があるから想えろと考えました。私がこのように考察できたのはこのキャンプに来れたからこそです。これまで生死はついて真剣に考えたことは、多くありませんでした。塚本先生がおっしゃっていたように、これまでの自分は死を忘れて生きていたことを、この講座で実感しました。



とはいえ、合宿に参加したからといって、私の人生の基盤とは何であるかはすぐに決められません。しかしキリスト教のさまざまな言葉を頂いて、参加する前の私よりもこれからの人生を考えられる私になりました。今回の機会を忘れず、私なりの人生を考察、思案し謳歌しようと思ひます。
(国際情報学部1年 ^{ほそや} ^{はるか} 細谷 遥)

就活を終え時間がたっぷりあり、キリスト教について深く学べる最後のチャンスだと思い参加を決めた。入学と共にコロナウイルスが流行し、今回のバイブルキャンプは私の大学生生活4年間で初めての開催であった。授業でしかキリスト教に触れることがなく、大して知識が無かったが、楽しむことが出来た。

学びの会の講師、塚本先生は大阪出身の非常にお話の面白い先生であった。先生の冗談やブラックジョークを交えた授業はとても面白く、時間があつという間に過ぎていった。全3回の学習会では「わたしがわたしでいられる場所」

について学び、私たち自身について改めて考える機会になった。私たちを作られた神についてや、人生において重要な3つのベースについての考え方、人間と神との関係、そして神の広く深い愛についてなど、これからもずっと心に留めておきたいと思う内容であった。また、アイスブレイクでキャンプ参加者同士の交流を深めることもでき、初対面の人ばかりであったが、新しい友人を作ることが出来た。

キャンプの参加前は、学習会に対して観光の時間が短く感じられたが、銀座通りで買い物をしたり、2つの美術館を見て回ったりと満足できた。今回、私は友人を誘うことなく1人での参加であり、キャンプのメンバーは全く知らない人ばかりであった。キャンプの前は不安に思ったが、皆気さくで早々に打ち解けることが出来た。

とても楽しく、非常に思い出に残る3日間であった。もうバイブルキャンプに参加することは出来ないが、キリスト教により強い興味を持ったので、残りの学生生活でも学び続けたい。
(国際情報学部4年 ^{すみよし} ^{みずき} 住吉 瑞希)

礼拝説教要旨

春の伝道週間

2023年5月22日(日) 朝の礼拝

「育ててくださる神様」

金城学院幼稚園園長 ^こ ^{だま} ^{めくみ} 児 玉 芽

幼稚園の4、5月は「おかあさーん」という泣き声と笑い声両方で賑やかです。

何年か前にも、毎日泣いてくる男の子がいました。園の玄関に入る前にひと泣き、お母さまから受け取っても大声で泣き続けます。賢いお子さんで見通しもあり、家でも夕方になると「明日は絶対にいかない！」と泣くようでした。彼の気分が少し変わったのは一緒に育てたイチゴが赤くなりはじめた頃。泣きながらじょうろで水をあげる彼と「お水をあげて、お日様が照って、神様が育ててくれるよ」と毎日話し、時々内緒でイチゴを試食するうちに、お友達もでき元気に通うようになっていきました。

その彼のおうちの方から久しぶりに連絡をいただきました。彼は学校の漢字の勉強で「天」という字を習い、その「天」の字を使って文章を作るという宿題がでたそうです。彼が自分で作った文章は「天の神様に会うために学ぶ」。

卒園して礼拝にも聖書にも接しない小学生としての生活を送っていた彼が「天の神様に会いに行くために学ぶ」と書いたとき、おうちの方は「彼の中には、ずっと神様がいて育ててくださっていたのですね」と驚き、連絡をくださったのです。



「天の神様に会いに行くために学ぶ」という言葉を私はとても哲学的だと感じました。この言葉は「漢字が書けるように」というような学びによる具体的な見返りや「出来るできない」というような評価を目指していないように感じます。

もっと深い、「生きる意味」を自分がちゃんと見出せたかどうかを持って神様に会いに行く、そのような意味にも受けとれるのではないのでしょうか？

皆さんも一生懸命勉強したり資格を目指すなど、再開されつつある対面での大学生生活に様々な希望を持っていらっしゃることでしょう。そのような具体的な事柄を通し、皆さんご自身がこれからどのように生き、学ぶのかを考える時間を持っていただきたいと願っています。

金城学院は大きな人生の意味を考えさせてくれる機会、チャンスがたくさん与えてくれる学び舎です。それは金城学院が神様を礎として建てられ、目に見える具体的な学びや体験だけではなく、その先に皆さんが「どのように生きていくのか」という大きな人生の「問い」に神様とともに寄り添う学校だからです。

皆さん自身が努力し学ぶ、そのすぐ横で神様がいてくださり、育ててくださっていることを感じながら豊かな学びの生活を送られますことを願っています。

2023年7月5日(水) 朝の礼拝

「運命を支える方」

熱田教会牧師 ^こ ^{はやし} 小林 ^{ひかる} 光

「主はわたしに与えられた分、わたしの杯。主はわたしの運命を支える方。」(詩編16:5)

ある年配の男性が私に言いました。「人の運命なんて風で舞い落ちる木の葉みたいなものですよ。表が出たり裏になったりして、地面に落ちた時に表か裏かなんて誰にも分からない。全くの運ですな。」その方は戦時中、日本人の開拓民をブラジルに運ぶ船の船員でした。敗戦となり、船でブラジルから日本に戻る日に病気にかかり、その船には乗れなかったのです。しかし、その船は戦争が終結しているにもかかわらず爆撃されて沈没し、全員死亡でした。「もし、あの日、病気でなかったら、私は今ここにはいませんよ」と、その方は複雑な表情で言われました。その方はその時、80歳でした。

その数年後に教会に来られるようになり、85歳で洗礼を受け、キリスト信者になりました。私が、「今でも木の葉の話覚えていますよ」と言うと、笑いながら、「もう忘れてください。今は違います。私の運命はイエスさまによって支えられていることが分かりましたから」と言われました。その方はその後4年間、毎週の礼拝に出席され、89歳で天に召されました。

教会では葬儀の時に遺影を飾ります。その方のお写真を額に入れて棺のそばに置くのですが、額だけでは不安定で倒れてしまいます。額の後ろを見ると、一本の棒が付いて、それを30度位の角度に広げると写真が立つのです。その時にハッと気が付きました。この方の人生を、運命をこの一本の棒が支えている！この一本の棒こそ、私たちの運命を支える方、イエス・キリストであることを。しかもその棒は写真の後ろにあるので、正面からは見えません。

私たちの背後に、いつもイエス・キリストはおられ、倒れないように支え続けておられます。私たちが生きている時も、死ぬ時も、そして死んだ後も、永遠に。



秋の伝道週間

2023年10月23日(月) 昼の礼拝

「私は誰のものか」

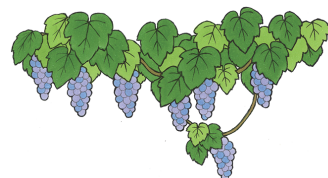
東京神学大学 大学院1年 ^さ ^{とう} 佐藤 ^{あん} 晏

私は、キリスト教を信じる両親のもとで育ち、幼いころから教会に通い、ごく自然に聖書の言葉に触れてきました。しかし高校生になり、色々なことを自分でよく考えるようになる中で、教会で聴くことに関して釈然としない思いを持つようになりました。聖書の中で繰り返される「愛」や「救い」、「罪」といった言葉が、あまりにも大きすぎて、私のささやかな日常とはかけ離れたものに思えたからです。

しかし大学進学後、その思いは少しずつ変わりました。特段何かあったわけではなく、それまでのように日曜日に教会に行く生活を続けただけです。しかし不思議と、次第に聖書の言葉がこの自分に向けられたものだと感じ始めました。そして、イエス様の命を下さるほどの深い愛が、自分にも注がれていると信じるようになりました。

その頃「生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです」(ローマの信徒への手紙14:8)という言葉に出会いました。私の存在や人生が私のものではなく、神様のものだというのです。当時の私は、充実した大学生生活を送りつつも、将来のことに悩んでいました。特に優れた能力もなく、これとやってやりたいこともなく、それでも、得意なことや夢中になれることを探すのに必死でした。それがなければ、自分の存在意義を見出せない、人生が虚しいものになるとどこか考えていたからです。しかしそれは間違いでした。私が神様のものだという事は、私の存在や人生に意味や価値を与えてくださるのは、神様だからです。その神様が、尊い存在だと言ってくくださるのだから、もう自分で価値や意味を作り出そうとしなくて良いのだと知りました。

私たちは時に行き詰まり、「私がここにいて良いのだろうか」と思うこともあると思います。しかしそんな時も、私がここにいること、ここからまた歩み出すことを変わらずに願い、良しとしてくださる神様の大きな手の中に、私たち一人一人の存在が、また日々の生活があることを思い出したのです。



礼拝

9月18日(月)	吉松 純	大学宗教主事
19日(火)	落合建仁	文学部宗教主事
20日(水)	松谷暉介	薬学部宗教主事
21日(木)	戸 莉 創	理事長
21日(木)	中家 盾	日本キリスト教会大阪西教会牧師
22日(金)	和田芳子	日本基督教団東海教会牧師
25日(月)	吉松 純	大学宗教主事
26日(火)	草地大作	日本基督教団名古屋中央教会牧師
27日(水)	中島善子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
28日(木)	松谷暉介	薬学部宗教主事
28日(木)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
29日(金)	落合建仁	文学部宗教主事
10月2日(月)	八束 清	日本基督教団御器所教会牧師
3日(火)	大住共平	日本基督教団立伝道所・碧南教会牧師
4日(水)	狩野進之佑	日本基督教団愛知守山教会牧師
5日(木)	田口博之	日本基督教団名古屋教会牧師
5日(木)	松谷暉介	薬学部宗教主事
6日(金)	落合建仁	文学部宗教主事
10日(火)	加藤明宏	愛知いのちの電話協会事務局長
11日(水)	吉松 純	大学宗教主事
12日(木)	吉澤 永	日本基督教団愛知教会牧師
12日(木)	南 尚浩	愛隣教会牧師

創立記念礼拝

13日(金)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
16日(月)	松谷暉介	薬学部宗教主事
17日(火)	山田詩郎	日本基督教団名古屋北教会牧師
18日(水)	辻 順子	日本基督教団鳴海教会牧師

秋の伝道週間「聖書と私」

23日(月)	吉松 純	大学宗教主事
23日(月)	佐藤 晏	東京神学大学 大学院1年
24日(火)	沖崎あいみ	文学部英語英米文化学科4年
24日(火)	松谷暉介	薬学部宗教主事

25日(水)	小池 なな	人間科学部多元心理学科4年
25日(水)	高岡美千代	クワイア指導者(クワイア特別讃美)
26日(木)	蜂屋歌子	生活環境学部環境デザイン学科3年
26日(木)	吉松 純	大学宗教主事(ハンドベルクワイア特別讃美)
27日(金)	木下未来	薬学部薬学科6年
27日(金)	落合建仁	文学部宗教主事

宗教改革記念礼拝

30日(月)	安達正樹	日本基督教団名古屋新生教会牧師
31日(火)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
11月1日(水)	中島善子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
2日(木)	松谷暉介	薬学部宗教主事
2日(木)	西村 清	日本基督教団中部教区巡回牧師
6日(月)	稲田勝之	日本基督教団中京教会牧師
7日(火)	辻 秀治	日本基督教団桑名教会牧師
8日(水)	吉松 純	大学宗教主事
9日(木)	和田芳子	日本基督教団東海教会牧師
10日(金)	落合建仁	文学部宗教主事
13日(月)	戸 莉 創	理事長
14日(火)	山田詩郎	日本基督教団名古屋北教会牧師
15日(水)	辻 順子	日本基督教団鳴海教会牧師
16日(木)	尹 成奎	日本基督教団中川ぶどうの木伝道所牧師
16日(木)	中家 盾	日本キリスト教会大阪西教会牧師
17日(金)	吉松 純	大学宗教主事
20日(月)	木下喜也	日本基督教団金城教会牧師
21日(火)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
22日(水)	横山厚志	日本基督教団瀬戸永泉教会牧師
23日(木)	落合建仁	文学部宗教主事
23日(木)	松谷暉介	薬学部宗教主事
24日(金)	榮 巖	日本基督教団春日井教会牧師
27日(月)	洛 雲海	日本基督教団奥沢教会牧師
28日(火)	安達正樹	日本基督教団名古屋新生教会牧師
29日(水)	小林 光	日本基督教団熱田教会牧師
30日(木)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
30日(木)	石田聖実	日本基督教団鈴鹿教会牧師
12月1日(金)	吉松 純	大学宗教主事
4日(月)	吉澤 永	日本基督教団愛知教会牧師

5日(火)	山田麻衣子	日本基督教団名古屋北教会牧師
6日(水)	辻 順子	日本基督教団鳴海教会牧師
7日(木)	大住共平	日本基督教団立伝道所・碧南教会牧師
7日(木)	南 尚浩	愛隣教会牧師
8日(金)	稲田勝之	日本基督教団中京教会牧師
11日(月)	羽鳥頼和	日本福音キリスト教会連合自由ヶ丘キリスト教会牧師
12日(火)	田口博之	日本基督教団名古屋教会牧師
13日(水)	中島善子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
14日(木)	草地大作	日本基督教団名古屋中央教会牧師
14日(木)	山田麻衣子	日本基督教団名古屋北教会牧師
15日(金)	落合建仁	文学部宗教主事
18日(月)	八束 清	日本基督教団御器所教会牧師
19日(火)	和田芳子	日本基督教団東海教会牧師
20日(水)	木下喜也	日本基督教団金城教会牧師
21日(木)	小林 光	日本基督教団熱田教会牧師
22日(金)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
1月5日(金)	落合建仁	文学部宗教主事

卒業予定者礼拝

9日(火)	吉松 純	大学宗教主事
10日(水)	戸 莉 創	理事長
11日(木)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長
11日(木)	松谷暉介	薬学部宗教主事
12日(金)	落合建仁	文学部宗教主事
15日(月)	諏訪 徹	事務局長
18日(木)	加藤明宏	愛知いのちの電話協会事務局長
18日(木)	中家 盾	日本キリスト教会大阪西教会牧師
19日(金)	安藤 剛	事務局長
22日(月)	狩野進之佑	日本基督教団愛知守山教会牧師
23日(火)	原田 望	大学事務部長
24日(水)	中島善子	日本基督教団豊橋東田教会牧師
25日(木)	松谷暉介	薬学部宗教主事
25日(木)	吉松 純	大学宗教主事
26日(金)	落合建仁	文学部宗教主事
29日(月)	小室尚子	学院長・宗教総主事・大学長

(赤字は昼の礼拝です)

朝の礼拝

日時 月～金曜日 8時45分～9時
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日時 木曜日 12時40分～12時55分
(伝道週間は13時5分迄)
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日時 水曜日 8時10分～8時25分
場所 キリスト教センターラウンジ

クリスマスツリー点灯式

日時 12月4日(月) 17時～17時30分
場所 N1棟前
奨励 長屋頼子(学院長補佐)
讃美 クワイア、ハンドベルクワイア

クリスマスオルガンコンサート

日時 12月4日(月) 17時30分～18時
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂
演奏 有田知子(大学オルガニスト)

クリスマスハンドベルコンサート

日時 12月9日(土) 17時30分～19時15分
場所 アニー・ランドルフ記念講堂
演奏 ハンドベルクワイア
入場料 1,500円 (Peatixで販売)

大学クリスマス礼拝

日時 12月21日(木)17時～18時30分
場所 アニー・ランドルフ記念講堂第1部 礼拝
説教 中家盾(日本キリスト教会大阪西教会牧師)
特別讃美 クワイア、ハンドベルクワイア、
ウクライナ人の祈り-ウクライナ語による讃美-
第2部 ウクライナのクリスマス～交流と祈り～

オルガンコンサート

日時 1月19日(金) 12時40分～13時10分
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂
演奏 服部かれん(文学部英語英米文化学科4年)
若山恵梨子(文学研究科2年)

※各行事の詳細はキリスト教センターホームページをご覧ください。
諸事情により変更となる場合がございます

大学教員キリスト教セミナー報告

日時：2023年8月8日(火) 10時00分～15時00分
講師：芦名定道先生(関西学院大学神学部教授)
講演Ⅰ「人権思想の行方-学問の自由・信教の自由」
講演Ⅱ「現代日本とキリスト教主義大学の意義」
参加者：125名(専任教員、助教、看護学部助手)

こちらのQRコードから講演動画を
ご視聴いただくことができます。



金城学院大学キリスト教センター

Tel. 052-798-0180 Email. ccoffice@kinjo-u.ac.jp
URL. https://www.kinjo-u.ac.jp/ccoffice/